

両市長からのコメント



大館市長
ふくはら じゅんじ
福原 淳嗣

1602年の佐竹氏の国替えに由来する縁のある常陸大宮市とは、平成9年に本市の小学生が旧大宮町を訪れたことをきっかけに交流が始まりました。先人が積み重ねてきた思い、歴史の重みが今回の協定締結につながったものと感じています。

今後は両市・両市民の絆が強固になり、防災のみならず、文化や産業、教育などさまざまな面で、交流の輪が一層広がることを期待します。

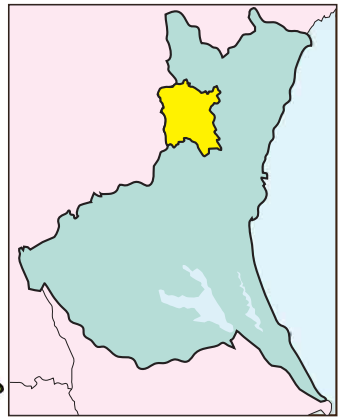


常陸大宮市長
みつぎ しんいちろう
三 真一郎

大館市と本市とは、佐竹氏に由来する歴史的な縁をもとに、昨年7月「災害時における相互応援に関する協定」を締結し、相互の信頼関係を築いてきました。こうした中で友好都市協定を締結できることは、大変意義深いものであり、心からうれしく思います。

今後は両市間でさまざまな分野における交流や連携を推進し、信頼と絆を大切に、ともに魅力あるまちづくりに向けて取り組みたいと考えます。

茨城県常陸大宮市



人口 4万2391人
世帯数 1万6317世帯
(10月1日現在)



茨城県の西北部、県都水戸から約20キロメートルの八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁台地北端の境界部に位置し、東に久慈川、南に那珂川、中央部に緒川、玉川が流れ、市の約6割を山林が占めています。

市の東部にはJR水郡線と国道118号が通り、中央部には国道293号、西部には国道123号が通っています。

豊かな自然の中、ネギ・シイタケなどの特産品の産地化や、県北工業振興の拠点である水戸北部中核工業団地など、農林業と工業の、調和ある発展を目指しています。また歴史も古く、市内には、由緒ある神社仏閣がたくさんあります。

常陸大宮市のみどころ

和紙



清らかな水と良質のコウゾを使用し、昔ながらの手法で作られる和紙は、全国的に有名です。かつては多くの家々で紙すきを行ったり、コウゾが栽培されたりしていて、市全域が和紙の生産に関わっていました。

平成25年には、和紙づくりに関する用具が国の有形民俗文化財に登録されています。

あゆの里まつり



毎年8月に開催され、あゆのつかみどり大会や太鼓フェスティバル、よさこいやまがた音頭やまがた音頭を披露。バーベキューや花火大会も行われます。

ばら



市の花に指定されています。辰ノ口親水公園内のばら園は、訪れる人の目を楽しませます。

また毎年5、6月には、市役所のロビーを会場にばらコンテストが開催されます。期間中は色とりどりのばらが展示され、会場はばらの香りでいっぱいになります。

やまがた宿芋煮会



JR水郡線「山方宿駅」近くの清流公園で11月中旬に行われる芋煮会は、「関東一の大鍋」が自慢です。奥久慈シヤモ肉やサトイモ、こんにゃく、ネギを使ったやまがた宿特製の芋煮を食べることができます。